

令和7年度「シラバス」 教科：工業 科目：社会基盤工学

単位数	2	学科（型） 学年	建設工学科（土木型） 3 年	教科書 副教材等	社会基盤工学（実教出版）
学習目標		社会基盤がどのように整備されてきたか、安全で暮らしやすいまちづくりのために今後どう整備・維持していくかを学習する。			
学期	学習内容			学習のねらい	
1	第 1 章 暮らしと社会基盤 1. 社会基盤の整備と土木事業 2. 暮らしを支えてきた土木技術 3. 国土計画と社会基盤の整備 第 2 章 交通・運輸 1. 交通・運輸のあらまし 2. 道路 3. 鉄道 4. 港湾 5. 空港			・社会基盤が土木事業によってどのように整備されてきたか、防災を含めて学習する。 ・交通需要を考えた交通計画、その中でも国内での割合が多い道路・鉄道の計画について学習する。 ・環境問題を考えた交通計画について学習する。	
2	6. 都市交通施設 7. 交通・運輸の環境対策 第 3 章 治水・利水・水環境 1. 水と人とのかわり 2. 利水 3. 治水 4. 生活用水と排水 5. 水環境の保全と回復			・日本は、洪水・土砂災害、それと同時に渇水も起きやすい自然条件であることを把握し、環境問題を考えた治水・利水計画について学習する。	
3	第 4 章 暮らしとまちづくり 1. 都市と都市計画 2. 都市の再生 3. エネルギーの整備 4. 災害と防災 5. 循環型社会の形成			・都市計画の歴史、新しい都市の計画、都市の再生について学習する。また、地球温暖化、廃棄物のリサイクル、エネルギー資源の有効活用などについて学習する。	
評価の観点		内 容			
知識・技術		・社会基盤はわれわれの生活や産業にとって必要不可欠であることを自覚し、これらの整備・維持を適切に行う知識を身に付けている。環境や景観に配慮しながら、適切な社会基盤の整備・維持を計画し、安全で経済的な方法で進める知識を身に付けている。			
思考・判断・表現		・安全で暮らしやすいまちづくりのために、社会基盤をどのように整備・維持していくかを総合的に考え判断し、まとめることができる。			
主体的に学習に取り組む態度		・土木技術の発展にともなう社会基盤の整備や維持について関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度を身に付けている。			
評価方法	・学習意欲、学習態度、学習に取り組む姿勢を評価する。 ・年間 5 回の定期考査の結果をもとに学習内容の理解度、定着度を評価する。 ・ノートの記入状況等について評価する。				
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項					
○基本的な内容が中心となるので、授業中に理解するよう努力すること。 ○ノートは、後から勉強しやすいように、丁寧にとること。					